

女子学院 二〇一〇年度 女子学院中学校入学試験問題(国語)

一次の文章を読んで下の問に答えなさい。

あるとき、アフリカのスーダン^{だん}の山の中で、断崖^{だんがい}の上から眼下に広がる雄大な風景に向けてカメラをかまえていた。そのときまわりを取りかこんでいた子どもの一人が「いったい、なにを撮^とっているの」といった。なにつて、この風景に決まっているじゃないかと内心つぶやきながら断崖の向こうを指さすと、子どもたちは指した方向を見て、①いぶかしんでいる。それから「なにもないよ」といって顔を見合せて不思議そうにしている。

そのとき、「そうか、この子たちは、この風景を美しいと感じて見ているわけではないのか」と思った。彼らの目からすれば、ぼくが美しいと感じている風景は、とくに気に a ようなものではないのだろうか。アフリカでは一般的②感覚として、写真とは記念写真や証明写真のように人が写っているものだ。人もない風景に、「あー」カメラを向けるのが不思議に思えても無理はない。

そのとき、子どもの一人が、「バカル、バカル」と声をあげて、遠くの方を指さした。バカルとは現地の言葉でウシのことだ。すると、ほかの子どもたちも、「バカル、バカル」と声をあげた。この外国人はウシを撮っていたのだといっているのだ。残念ながら、ぼくはウシを撮っていたわけではない。「い」ウシなんて、どこにも見当たらぬ。ところが、子どもの指さす方に目を b と、たしかに遠くの山の斜面に数頭のウシの姿が豆粒ほどの大きさで見えている。それは超望遠レンズでもなければ撮れないほど遠かったし、いわれなければ気づくこともなかった。

でも、子どもたちは、この外国人はウシを撮っていたということに納得がいったようだった。まあ、いいか。③風景を撮っていたんだと説明したつて、おそろくわかつてはもらえまい。子どもたちが目の前に広がる景色を、風景という概念^{がいねん}でとらえているかどうかとも怪しかったし、それを美しいと感じて撮^とるという行為は、説明しようにも、彼らの理解の範囲^{はんい}を超えているはずだ。

考えてみれば、ぼくだって子どものころ、風景を見て美しいと感じたことなんてなかった。遠足で山や湖など景色のいい土地を訪れても、クラス気になる女の子や、友だちとぶさけるのに心を奪^はわれていて、風景など「うー」目もくれなかった。

それなのに、どうして大人になつたいま、風景を見て美しいと感じ④のだらう。もちろん、人によつてどのような風景を美しく感じるかはそれぞれだろうが、それでも地平線に沈^{しず}む夕日や、紅葉に染まつた秋の山や、満開の桜などを見ると、日本人の多くは美しいと感じる。しかし、これらの風景にしたつて、子ども^{こども}のときはなんとも思つていなかったはずだ。それをいま美しいと思えるのは、なぜなのか。それは、こうした風景を美しいとする文化の中で生活するうちに、その文化の見方にしがつて自分の⑤「がつくられていつたからだろう。

テレビや⑥などの情報を通して、紅葉は美しいとか、夕焼けはきれいだ、京都の清水寺では写真を撮るものだということを、われわれは知らず知らずのうちにすり込まれていく。実際、美しいと感じる風景とは、たいてい過去にどこかで目にしたことがあるものだ。もちろん美意識のすべてが、⑦Aによつてつくられるとはいえないが、それがものの見方や感じ方に大きな影響を与えているのは否定できない。

スーダンの山の子どもたちは、写真は知つていても、ふだんはテレビはもちろん、写真にも雑誌にも接する機会のない暮らしをしていた。生活の中で、風景だけを取りだして、⑦それを味わうこともないだろう。そんな彼らが、ぼくがカメラを向けていた景色の中で、唯一、関心をもつて見ることでできたのがウシだった。

ウシは彼らの「B」だった。ウシを連れて放牧にも出かけるし、大人たちが、これは立派なウシだなどと話すのを聞いたこともあるかもしれない。だから、遠くの山の斜面にウシを見つけたとき、彼らは「ああ、こいつはウシの写真を撮っているのだ」というふうに、ぼくの行為を自分たちの文化の文脈に結びつけて理解することができたのだ。

(田中真知『美しいをさがす旅に出よう』)

受験番号

氏名

[]

[]

問一 ― ①では、子どもたちはなぜ「いぶかしんでいる」のですか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 撮影者が言葉のまつたく通じない外国人だったから。
イ 撮影者が人や動物のいないところにカメラを向けていたから。
ウ 撮影者が何も言わないで断崖の向こうを指さしたから。

エ 撮影者がしみじみと風景に見入つてるように思われたから。
問二 □ aとbに入る動作をあらわす語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- a ア いる イ さわる ウ とめる エ する
b ア こらす イ ひらく ウ こする エ くばる

問三 ― ②「感覚」のように、同じような意味の漢字を重ねてできた熟語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 眼下 イ 写真 ウ 放牧 エ 生活
問四 「」あくうに入る適当な語を次から選び、記号で答えなさい。
ア よくよく イ わざわざ ウ ろくろく
エ なかなか オ だいたい

問五 ― ③では、筆者はなぜ「わかつてはもらえまい」と考えたのですか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 遠くのウシを超望遠レンズで撮ることにしたから。
イ ウシを撮っていると相手が納得していないようだから。
ウ 風景を撮っていると伝えるのがめんどうだったから。
エ 子ども時代は風景を美しいと感じないものだから。

問六 ④に、ひらがなを入れて「自然にくする」という意味にしない。

- 問七 (⑤)に入る適当な語を次から選び、記号で答えなさい。
ア 発想 イ 理想 ウ 感性 エ 思考

問八 ⑥には風景の情報を得ることができるものが入ります。本文中にない例を二つあげなさい。

- 問九 () A、Bに入る語句を次から選び、記号で答えなさい。
ア 文化の一部 イ 文化の不思議
ウ 文化の広がり エ 文化のすり込み

問十 ― ⑦「それを味わうこと」とはどのようなことですか。文中の言葉を用いて十五字以内で答えなさい。

二次の文章を読んで下の問に答えなさい。

院

学 ホントに誠二と信ちゃんとは仲のよい友たちであつたのだ。信一もランブの笠の掃除を止めて「外に出よう」と言った。皆ドツとハダシで庭に出た。角力が始まつた。誰が始めたと言つてもない、角力をやろうという子 皆の考えが偶然に一致したのに過ぎないのである。こんな時はいつでも弱々しい信一と誠二が一番さきに取り女組むことに定まつていた。そしてある時は信一が、ある時は誠二が勝つたりしてほとんどどっちが強いとは言われないほどであつた。①今日も例によつて信一と誠二が一番さきに取り組んだ。なかなか勝負がつかなかった。信一も誠二もありつたけの力を出して努めているんだがなかなか勝負がつかなかったのだ。そこで行司の勇ちゃんが「(1)」と低く叫んだ。しかし二人は夢中になつてるのでそれが聞こえるはずがなかった。

勇ちゃんは女みたいな細いきれいな②眉をちよつとひそめて「オイオイ引き分けたよ」と言つて二人の傍に歩いて行つた。ちよつとその時どつしたはずみか信一と誠二はほとんど一緒に取り組んだままドシンと響を立てて、よほど強く地にうちたおれた。傍に歩いて行つた勇ちゃんも③傍杖を食つて一緒にたおれたのは無論である。誠二はすぐ起き上がった、勇ちゃんも起き上がった、そして「今の勝負は前に言つた通り引き分けとしまアす」と元氣よく言つた。誰もこれに対して不平を言わなかった。

しかし信一はこんなまま起き上がろうとはしなかった。誠二はこれを見て急に心配になつて、そばに行つて「信ちゃんどつしたい」と声をかけた。しかし信一はだまつて顔を押さえていた。

誠二は信一をよく見た。誠二はハツと思つた。信一の顔を押さえている細い指の間から細い糸筋のような血がタラタラツと二回繞いて地面におちたのを見たからだ。

誠二はこれアどつか怪我をしたなと氣がついた時にはもう友たちの大抵も氣がついていたのだつた。もう角力どころの騒ぎではなかった。誠二と勇ちゃん二人で信一を抱き起こした。「どこを、いたくしたんだい」誠二は聞いた。信一はだまつて両手を顔から離した。

誠二はブルブル震えた。信一の眼から血が——ソウタ確かに眼から血が出ている、誠二は④妙に凍つたような笑顔を作つて「なんでもないや。家に入つて、お母さんに薬をつけてもらつて来たらどうだ」と言つた、その声もオドオドして震つてまでいたことは言うまでもないことだ。信一はだまつて家の方に歩んだ。

誠二は勇ちゃんと角力をやつた跡をソワソワかたづけていた。誠二は横目でチョツと家の方に歩いて行つた信一の方を見た。誠二は友たちが皆で信一をとりまくようにして何か信一に聞いているのを見た。

信一は低くチョツト何か友たちに言つたようであつた。それを聞くと友たちは一斉ににらめるように眼を誠二の方にくばつた。誠二はハツと固くなつた。きつと今信一が皆に「(2)」にやられたんだ」と言つたのにちがいない、イヤ確かに言つたのだ。僕が確かに信一の眼を傷つけたんだもの、と誠二は自分のからだを冷たくなるのを意識しながら考えた。友たちはバラバラ誠二と勇ちゃんのいる方に帰つて来た、もう信一の姿は家に入つてしまつた。友たちは「オレは知らないぞ」⑤源太に殺されるぞ、信ちゃんをあんなようにして……」「誰がやつたか俺はチャンと知つてるよ」等意地悪く言つていた。誠二の心はもう恐怖の絶頂に上つていた。あの源太……今に怒つて来て……あの源太が……源太……誠二の頭に源太の二字がハッキリと焼印でおされていた。友たちは何か言つていた。誠二は源太の家から早く行こう、逃げようと思つた。⑥しかし彼にはそれはなんだか一つの罪を作るもののように考えられた。

源太……源太、殺される……まさか……でも……誠二はガタガタ震つている自分をも恐ろしさのために忘れていた。その時友たちが「来た来た」と小声で言つたのを聞いた。誠二はもうあきらめたような恐怖し過ぎたようなホントに変な心持ちになつてしまつた。だまつて足もとに生えているタンポポのつばみを見つめていた。そしてやがて起る源太の罵り声を待ち受けていた。

「信が馬鹿で怪我をしましたたつてネ、角力をとつたんです……マア誰と角力をとつたんでしょう」

誠二は⑦泣きたいほどうれしかつた。源太とばかり思つていたのにこれはまた信一のお母さんだつた。あの誠二をかわいがつてくれる、あの優しい源太のおかみさんであつたのだ。もう誠二はだまつていることができなかった。

「おばさんッ僕です。信ちゃんと角力をとつたのは、かんにんしてネ」誠二はこれだけ言つて源太のおかみにすがりつきたかつた。おかみさんはなお優しく「オヤ誠ちゃんなの、いらない心配をしていらつしやつたでしょう。ナア二ほんのちよつとはかりなんですヨ」と言つて笑顔まで作つていた。誠二はナンとも言つことができなかった。ただ無理な微笑を以てこれに応えたばかりであつた。

おかみさんは「まだ遊んでいらつしやいよ」と言つて家に入つて行つた。

誠二はもううれしいやら、すまないやらで、だまつて座つていられなくなつた。ホントに快活にヒョンと立ち上がつて「オイ皆何かして遊ぼうや」と言つた。友たちは⑧不思議そうにして誠二を見ていた……しばらくしてから皆何もかも忘れてしまつたようにして楽しくかくれんぼをして遊んでいた。友たちの成ちゃんがそツと誠二の耳に口をつけて感激した口調で「君はエライね、皆感心していたヨ、勇ちゃんの⑨犠牲になるなんて」と言つた。誠二は不思議そうに「犠牲？」とつぶやいた。誠二にはちよつと分からなかつた。成ちゃんは「オイ君いいんだよ。僕らはホラ、サツキ信ちゃんから聞いて知つてるんだよ。君も知つていたはずじゃないか。ホラあれは勇ちゃんが信ちゃんの眼に、あやまつて指をつこんだんじゃないか、それに勇ちゃんが知らぬ顔をしてるのが憎らしいじゃないかネ」誠二ははじめて成ちゃんの言つた犠牲の意味がわかつた。⑩彼は思はず苦笑をもらした。そしてこんな犠牲なら何度なつてもいいと思つた。

(太宰治『犠牲』)

問一——①の理由にあたる一文をぬき出し、はじめの四字を答えなさい。

問二「行司」の読みを書きなさい。

問三(1)に入る適当な語を文中から一語でぬき出して答えなさい。

問四——②とはどんな気持ちを表す表現ですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 警戒 イ 驚き ウ 不快 エ おびえ

問五——③はどういう意味ですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア ささえようとして イ まぎぞえになつて
ウ いきおいづいて エ つまずいたふりをして

問六——④での誠二の気持ちを次から選び、記号で答えなさい。

ア 眼から血が出してしまうなんて怖い、まわりの友だちに怖がりだと氣づかれてはいけなないので笑おうとしている。

イ 信ちゃんが一番不安であろうから、なんとか元氣づけるために明るくふるまおうとしている。

ウ 信ちゃんの怪我は本当は大したことはないのだから笑つてもよいのだが、申し訳ないので真剣な顔をしようとしている。

エ 自分が大変なことをしてしまつてかなり不安になつてゐるが、できるだけ平静を保ち自分をおちつかせようとしている。

問七(2)に入る適当な語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 誠ちゃん イ 勇ちゃん
ウ 成ちゃん エ 源太

問八——⑤「源太」は信一にとつてどういう間柄の人ですか。

問九——⑥の「罪」とはどういうことを指していますか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 勇ちゃんが信ちゃんを傷つけた事実を黙っていること。

イ 自分が信ちゃんを傷つけたことを黙つたまま逃げること。

ウ 怪我をした信ちゃんの手当てをしないで自分だけが逃げること。

エ 自分がやつた、という嘘をついてその場をやりすごそうとしてゐること。

問十——⑦はどういう気持ちですか。文中の言葉を用いてくわしく説明しなさい。

問十一——⑧で友たちはどんなことを不思議だと思つたのですか。わかりやすく説明しなさい。

問十二——⑨はどこではどのような意味ですか。五字以内で言いかえなさい。

問十三——⑩はなぜですか。次のように答えなさい。
(A)——と思つていたのに (B)——と思われたから。

女子学院 二次の文章を読んで下の問に答えなさい。

コロコロと新しいものを求めて流される暮らしというのは、それを得たときは満足感があるけれども、その満足感是非常に(1) ()なものではないでしょうか。自分たちの生きることに必要なものと自分との間に、いわば感情がつかざるような世界というものをもちたないのではないか。だから、次々買っては捨てていく。浮気っぽいといっているですね。浮気っぽい世界には感情の密な交流というのは起こらないわけです。いま私たちはものに對して淡泊(たんぱく)になっているのか、それとも物欲のとりこになっているのか。(2)矛盾(むじやく)しているようですが、どちらともいえるわけです。

また、多くのものを持つことは、人間同士の心のつながりを断ち切っているともいえないでしょうか。親と子の関係も、(3)「ゴミの出る暮らし」と「ゴミの出ない暮らし」と比較(ひかく)したときに、「ゴミの出る暮らし」のなかでは洋服ひとつとつてみても、(4)接点(てってん)が少なくなっているのではないのでしょうか。おばあちゃんやお母さんの気持ちが子供に伝わるのが薄(うす)くなった。ゴミの出ない暮らしのなかでは、服に穴が開いたらつぎを当てて、あるいはアップリケをくっつけて繕(つくろ)ってくれた。ものの生命を大事にする暮らしの中に、それを繕ってくれるお母さん、おばあちゃんがいて、それを着る子供がいた。いまは、そういうものがなくなつて、破れれば捨てて新しいものを買う。これは、(5)人間にとつて大事なものを失っているということになっていないでしょうか。ものが豊富になることと、世代を超えて結ばれる人間関係が薄れていくということは、ひとつにつながっているのではないか。そう私は思います。

また、いまはコンクリートの建物が多くなっています。コンクリートの建物は、(a) ()、「ゴミの出る建物でもあるんです。それはどうしてか」というと、コンクリートのものは再利用は絶対できないんです。コンクリートの建物をつぶすときは、大きな鉄の塊(かたまり)をドーンドーンとぶつけてつぶす以外にない。実に荒々(あらあつ)しいことをやりますね。(b) ()木の建物だったら、一度壊(こわ)して、また利用することは可能なのです。もちろん最近の木造住宅も使い捨てが当然となっていますが、むかしの家はそんなことはありませんでした。(c) ()、非常に優雅(ゆうが)な話になりますが、廃村の古い家を解体して道路のそばに移して、そこが食べ物屋になつていて風景を見かけたりします。むかしの農村の家は木の家だったからそれを解体して運んでからもういつべん組み立てて、また作り直すことができるわけです。でもコンクリートだったらそれはできないんです。このような建築廃材が産業廃棄物(がいきぶつ)の不法投棄(とうき)の中では量的に一番多いのです。

そこで、(6)「農的世界、木質的世界が非常に大事だ」ということになります。畑を起こす、種を蒔(ま)く、芽が出る。私も畑仕事をしていますが、種を蒔いて芽が出たときはものすごくうれしいものです。芽が出て、そしてそれを丹精(たんせい)こめて実らせる。実がなったら、また喜びがある。そこには暮らし全体のひとつの流れがあつて、その流れの中で喜ぶ世界というのがあります。その生活の中には、こうしたら何が得られるかということ、得る前に想像する楽しみがある。そして、その想像を実現するための努力(あせ)の汗がある。弾むような期待感がある場合は、汗が流れたってちっとも(A) ()ならないんですね。自分でコントロールできない大きな流れの中の歯車として、しなくてはならないとして(B) ()仕事は辛いんです。それに対して、期待し、想像し、自分が計画した自立的な仕事の場合、汗は流れるけれども楽しいのです。そういうふうには畑仕事をして、そして収穫(しゆく)して、その収穫したものを台所で調理して食べてという暮らしは、ものすごく豊かな暮らしだと私は思っています。

生きた自然の中から与えられたものをもとに生活しているときには、生きた自然に返せば生きた自然が全部始末してくれるんです。だからゴミの問題というのはおこらなかった。循環(じゆんかん)の中ではおこらない。ゴミの出ない暮らしとはなにかと考えると、そういう農的な循環のある暮らしに戻(もど)っていくのです。

(槌田 劭 編『地球をこわさない生き方の本』)

問一 (1) ()に入る適当な語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 内面的 イ 多面的
ウ 全面的 エ 表面的

問二 (2) 「矛盾している」とは、つじつまが合わないことですが、何と何がつじつまが合わないのですか。文中からぬき出しなさい。

問三 (3) 「ゴミの出る暮らし」は言いかえるとどういう暮らしですか。十五字以内で答えなさい。

問四 (4) 「接点が少なくなっている」とありますが、何の接点ですか。答えなさい。

問五 (5) 「人間にとつて大事なもの」とは何ですか。文中から十二字以内でぬき出しなさい。

問六 () a c にふさわしい接続語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ また ウ たとえは
エ ところが オ つまり

問七 (A) に適する語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 楽に イ 苦に
ウ 心地よく エ さびしく

問八 (B) に「自立的な仕事」の反対になるようにひらがな五字を入れなさい。

問九 (6) 「農的世界、木質的世界が非常に大事だ」と言っていますが、この二つの世界に共通することはどんなことですか。

四 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 駅でイシツブツを引き取る。
- 2 キンベンな学習態度を求める。
- 3 大統領コウホが演説をする。
- 4 カソウ行列に参加する。
- 5 実力をハッキする。
- 6 シュウラクの人口が半減する。